

歯科口腔外科

(スタッフ)

歯科医師 : 田嶋 理江
 歯科衛生士 : 渡邊 弘美
 : 藏本 典子

歯科医師は大分大学医学部附属病院歯科口腔外科から交代派遣され、歯科医師1名が嘱託医として勤務しています。

歯科衛生士は渡邊と藏本との2名が勤務しています。

(診療実績)

外来診療は、月～金の週5日体制で行いました。

2019年1月から12月の外来延患者数は3,972人で、新患外来患者数は968人でした。新患外来患者の疾患別内訳は表1に示しています。入院延患者数は50人でした。

当院のがん等に係わる全身麻酔による手術又は放射線治療若しくは化学療法を実施する患者に対し新規で専門的口腔管理を施行した患者数は122人で、紹介科別内訳は表2に示しています。

(今後の方向性)

- (1)前年度と比較しますと新患外来患者数、入院患者数ともに増加しています。今後も、基礎疾患があり出血傾向や易感染状態にある方の抜歯や埋伏歯、嚢胞、口腔粘膜疾患、良性腫瘍などの口腔外科疾患の治療に対して、地域歯科医院からの受け入れを強化していきたいと考えています。
- (2)当院は地域がん診療拠点病院として多くのがん患者が治療を受けます。悪性腫瘍に対する手術、放射線治療、化学療法、骨髄移植を受ける患者の他、心臓血管外科手術や、脳卒中に対する手術、人工関節置換術を受ける患者の口腔管理を行っています。周術期における口腔管理も重要視されており、各診療科と協力して治療が円滑に進むよう口腔機能の維持、口腔環境の改善を図りたいと思います。
- (3)病気や障害など様々な理由で通常の歯科治療が困難な患者に対して全身麻酔下での歯科治療を行っていききたいと考えています。
 歯科治療終了後は、地域の歯科医院に逆紹介し、連携を図ります。
- (4)歯科医師は学会・講習会に参加することで、口腔外科における知識・スキルの向上に努めます。また、

歯科衛生士も学会、地域ケア会議等へ参加し、全身疾患を持つ患者の口腔環境の改善のため、知識の向上に努めていきます。

(文責：田嶋理江)

表1 新患外来患者の疾患別内訳

	2018年	2019年
有病者の歯科疾患	474	490
埋伏歯	82	82
粘膜疾患	71	197
顎関節疾患	47	34
外傷	33	31
良性腫瘍	24	40
炎症	13	23
嚢胞	12	21
ARONJ	11	5
口腔がん	9	5
唾液腺疾患	4	7
唇顎口蓋裂	3	4
神経性疾患	2	9
先天異常・発育異常	0	3
その他	11	17
計	796	968

表2 周術期口腔機能管理の診療科別内訳

	2018年	2019年
循環器内科+心臓血管外科	44	28
血液内科	30	36
耳鼻咽喉科	29	24
乳腺外科	15	6
呼吸器腫瘍内科	12	12
消化器外科	12	4
呼吸器内科	5	6
泌尿器科	3	0
消化器内科	2	2
呼吸器外科	2	0
小児科	1	0
婦人科	1	4
計	156	122